

## デービッド・ローチバム氏による検討ペーパーへのコメント（要旨）

### 1. 本ペーパーの問題意識:

検査制度の長所と短所を端的にとらえている。また、各ステークホルダーに紐づけた課題整理は、検査制度の幅広いステークホルダーに対しても有益である。

### 2. 情報公開:

今回の「白」「赤」の検査指摘事項は、事業者に対する社会の不信感を招いたとのことであるが、これらの検査結果は社会の信頼を高めることも可能であり、またそうあるべき。もし NRA が「白」「赤」の検査指摘事項を全く出さない場合、それはセキュリティと安全が十分に保証されていることを示すかもしれないが、NRA がセキュリティと安全性の不備を見逃し、見落とし、軽視していることを示しているかもしれない。米国 NRC の報告で、ある発電所が Force on force（緊急事態対応訓練）のテストに失敗したとあった場合、NRC のテストが強力であることを示しているという点で、私は安心する。発電所が簡単なテストに合格するより、強力なテストに失敗する方がはるかにいいと考える。こうしたテストの失敗を通じ、私のような外部の人間にも、NRC のテストが強力だと理解できるようになる。

### 3. 安全とセキュリティ:

第一に、本ペーパーの安全とセキュリティの 4 要素を用いた比較説明は、非常に明瞭である。第二に、安全とセキュリティの違いについてだが、安全の問題は詳細まで公で議論されるのに対し、セキュリティの問題はテロリストに有利な情報を与えないよう自由に議論できない。しかし、セキュリティ問題がオープンに語られないことで、発電所従事者や NRA の気付きを妨げてしまう。重要な情報をテロリストから守りつつ、そうではない情報については産業界、NRA、公で共有するためのよりよい方法が必要である。

### 4. 安全パフォーマンス低下の予兆:

安全パフォーマンス低下の予兆は、適切なゴール設定であるが、チャレンジングでもある。そのため、米国 NRC は、事業者のパフォーマンスが低下して監視区分が 3,4 または 5 といったより注意を要する区分になると、基本検査プログラムの振り返りを行う。適切なリソース配分になってきたか、より早くパフォーマンス低下を検知できなかったのが検証され、検査プログラムがより効果的になるための改善点が明らかになる。

### 5. 深刻な安全・セキュリティに対する認識:

試運用では緑やマイナーが議論の中心で、最も深刻な問題(赤判定)について NRA と産業界の正式な対話がなかったことは、最も深刻な安全性とセキュリティの問題について、NRA と産業界が共通認識を持つ機会が不足していたことを意味する。NRA と産業界が、このような問題に対し共通認識を持つことが、今後の問題回避の取り組みを成功させるために最も重要である。

## 6. 事業者の一義的責任：

事業者の一義的責任は、私も NRC に繰り返し指摘しているが、検査官がある違反を発見した場合、実際には2つの違反を指摘している。違反そのものと、NRC よりも早く事業者が問題発見に失敗した点である。事業者は両方の違反、すなわち違反そのものと、問題を特定しすぐに修正することを阻害しているプログラム上の失敗の両方を是正しなければならない。

## 7. セキュリティ分野の力量向上：

従業員は、自分のセキュリティ業務を最大限に遂行するための力を与えられるべきである。セキュリティ問題の情報が誰にも公開できない状況においても、取りうる最善の対策を検討しうる。その一例として、発電所の安全部門からセキュリティ部門への異動時に、当該社員が過去のセキュリティイベントを確認し、必ず試験を受ける、といった施策が考えうる。

## 8. 繰り返し問いかけること：

柏崎刈羽発電所の赤評価事案で管理者と作業者は、セキュリティ上の問題を認識していたにもかかわらず、解決に必要な措置を講じなかった。安全面でも同じような問題があったとしたら、それを放置していただろうか。そうでないとしたら、なぜセキュリティの問題は安全の問題ほど重要だと認識されなかったのだろうか。

デービッド ローチバム

2021年6月